



あおもり 町連だより

第229号

令和6年4月発行
青森市町会連合会
〒030-0801 青森市新町一丁目3-7
TEL 017(734)2584
FAX 017(734)2587

豊かで住みよい町づくりへ

臨時総会開く

組織体制を刷新

青森市町会連合会は昨年12月20日、男女共同参画プラザで臨時総会を開きました。「豊かで住みよい町づくり」にまい進するため組織体制を抜本的に見直すことにし、規約改正など関連する議案6件を諮り、原案通り可決、承認されました。

地域に見える活動

臨時総会には町会長117名が出席しました。佐々木重光会長は「議案はすべて令和5年度の定時総会で承認された町会連合会組織改革に基づくものです」と前置き。今回の規約改正などにより、旧態依然となっている組織を刷新し、①町会の要望に応えうる組織②地域に直結し地域に見

ます。
後1時からホテル青森で開催し
度定時総会を5月28日(火)午
青森市町会連合会は令和6年

定時総会 5月28日

町会連合会の組織体制一新を決めた臨時総会

える事業展開をし、成果を上げられる組織③公正・公平で透明な組織④効果的な収支予算編成と適正な執行で安定した運営を行う組織一の4つの基本方針実現に向けて全力で取り組んで行くと、理解を求めました。

4年度から検討

組織改革と関連議案の各案は4年度に準備会で検討が始まりました。5年度はプロジェクトチームを立ち上げて素案をつくり、各地域協議会役員会と3つの地域協議会の町会長研修会で説明し、意見を聴取してまとめたものです。

地域協議会を廃止

改正の要点は①副会長を5名から2名体制に②会長と副会長の選出を立候補制から常任理事の互選に③地域協議会

を廃止して東、西、南、北、中のエリアの名を付し、町会連合会長がエリア会議を開催する一などです。

また、これまで地域の活性化に向け総務、地域振興、交通・防犯、環境、福祉の事業部会が設けられていましたが、それらの事業に特化した関係機関や団体への協力、支援という形式的対応が目立つようになりました。

部会再編しスリム化

そこでこれから事業部会の再編を行うこととし、管理部門を担当する総務部会と事業部門を担当する企画部会に大別した結果、部会は既設の女性部会と合わせて3つにスリム化されます。

これにより、町会連合会は6年度から新たな組織としてスタートを切ります。

市政懇談会開き市に要望

市政懇談会が1月10日、しあわせプラザで開かれました。青森市町会連合会は住民の暮らしのなかで起こる、さまざまな問題を市に率直に伝え、ともに解決しようとコロナ禍の中断をはさみ毎年開催しています。町会連合会から佐々木重光会長をはじめ理事28名、市からは西秀記市長をはじめ市幹部が出席しました。

町会連合会を代表して副会長の松本勝義、岩淵壽満、横山芳信、葛西清光の4氏が要望を含め①若者の人口減少②地域活動助成金の対象範囲③高齢者世帯等の雪処理④提出書類の印鑑省略化⑤道路補修⑥野木和公園の整備⑦空き家の活用—などについて市の考えを質問し、意見を交換しました。

質問に対し西市長をはじめ、市の担当部長は一つひとつ丁寧に応答し、このうち、若者人口の減少については「20代の世代人口は20年で半分以下

にまで減少した。全国的な課題だが、青森市はこの数年、予想されたより減少傾向が緩やかになっている。移

住・定住促進、就活サポート、地元企業とのマッチング、採用情報の発信、創業支援などの効果が出てきた。さらに重

若者の人口減進む 高齢世帯の雪処理 空き家活用もっと 野木和公園整備を

点的に取り組んでいく」と回答。企業誘致を進めるため、合子沢地区の中核工業団地では大区画の分割分譲を進めていることを紹介しました。

また空き家対策については「空き家等対策計画を策定し、周知や利活用を進めてきたが所有者の声に耳を傾け、さらに実効性のある対策を進める」、野木和公園の整備では



西市長ら市幹部（奥）と意見を交わす町会連合会理事たち

「東の合浦公園とともに歴史のある、青森市を代表する総合公園。桜をはじめ植栽の手入れや水回り、トイレの整備を進めてきたが今後もしっかり対応する」と話しました。

懇談会では意見交換に先立ち、西市長は「市民力+民間力で みんなで育てるまちに」と題し、初当選した昨年6月からこれまでの取り組みを講演しました。

この中で市長は市総合計画の見直しに当たり、市の10年後の姿について市民の視点から意見やアイデアを聴く「あおもり未来ミーティング」を始めたとして、「そろそろアクセルを全開にして走りたい」と新年度への決意を語りました。

女性部会の事業 6年度も活発に

女性部会(木村常子・部会長)が1月19日、男女共同参画プラザで開かれ、令和5年度の活動を検証し、6年度の事業計画を話し合いました。

5年度は女性の集いを開催したほか、防災の勉強会では避難所で役立つ段ボールベッドの組み立てを体験=写真、さらに終活をテーマにエンディングノート作成を試すな

ど、計画通り事業を展開しました。

コロナ禍のため規模縮小が続いていた女性の集いは、ようやく元通りの形式で開くことができ、西市長の講演も満席の会場で熱を帯びました。防災や終活の勉強会も会員の要望などを受けたテーマで開催しており、好評でした。

6年度は引き続き女性の集いやテーマごとに勉強会、研修会を計画しています。市や関係機関の協力を得ながら、



会員の様々な要望に応えられるようなテーマを設定することにしています。



稲元町会

町会長 今田 悦子

量販店やマンション

創立50周年を過ぎた当町会は、創立時は田畑が残っており、緑が広がっていました。

しかし、旧滝内小・中学校跡に歯科技工士学校、種市鉄工所跡にユニバース・ホームマック・ダイソー・ハッピードラッグ等の量販店が次々と出店し、それに伴いマンション・アパート等の建設が進み、町会は様変わりしました。

町会費徴収100%

地域の発展と共にマンションやアパートが次々と建ちましたが、建築中に不動産会社と協議をして、町会費は会社が集金をし、全戸まとめて振り込みをして貰っています。そのため、企業も含め100%の町会費徴収ができています。

防災、環境、研修に重点

町会長を拝命してから丸8年になりますが、最初に手掛けたのが「防災会」づくりでした。小学生で十勝沖地震を経験し、東日本大震災までに幾度となく災害を体験しました。自然災害は予測不能なこともあり、日頃から知識を高め、備えをすることが最善の対策と考え設立をいたしまし



水中歩行の訓練



家族対抗輪投げ



スーダラ節を熱演

た。

町会の人材を活用し、消防署や自衛隊を退職した方に講師をして頂き、人命救助を学んだり、段ボールベッド作りや水中歩行等を体験し、防災研修に励んでいます。

沖館川に沿って住宅があるため、春と秋の2回に渡り草刈り等の清掃活動をしています。特に秋は、近隣の西滝・滝内・三和・稲元町会合同で作業をし、最近では三内中学校ボランティアの生徒も加わり、毎年クリーン作戦を繰り返しています。

若い世代が増える

これまでに夏祭りやラジオ体操、忘年会、新年会、餅つき、盆踊り(終了)に取り組み、どの事業も老若男女一緒に集い交流をしています。最近では、転居者が増え、喜ばしいことに、未就学児童や小学生低学年の子供がいる若い世代の家庭ばかりです。

「ここに住んで良かった」と思えるように、転居者の全家庭と、以前から住んでいる小さな子供さんがいる家庭の方々を対象に「顔合せ会」を開催いたしました。輪投げやサイコロゲーム、カーリング等を家族対抗で競い合い、楽しい一時を過ごしました。

また、心の縁側づくりで活動している仲間が、手作りの衣装を纏い「スーダラ節」を披露し笑いを誘っていました。

ホームページをご覧ください

青森市町会連合会のホームページは町会の広報紙も掲載しています。パソコンでもスマートフォンでもご利用いただけます。アドレスは次の通りです。
<https://aomori-choukairen.jp>

下記QRコード
からもアクセス
できます



いにしへの「町名」「通り」を知ろう

近現代編⑪

通りの名前に残った「税務署」

国道4号と国道103号が交わる国道NTT交差点から海手へ延びる通りは旧税務署通りと呼ばれています。かつて本町一丁目のマルサ本町駐車場附近に青森税務署があったことから、この呼称が定着しました。

税務署の創設以前

税務署という行政機関が創設されたのは明治29年(1896)11月のことでした。その前身は府県の機構のひとつである収税部出張所(のちに収税署と改称)です。

青森県は明治22年、新浜町(現本町)に収税部出張所を置きました。明治25年に発行された「青森実地明細絵図」を見ると、新浜町に収税署が描かれています。場所は現在の青森青年会議所附近とみられます。この場所から山手へ延びる通りが現在の旧税務署通りです。つまり、この通りは明



収税署周辺
(「青森実地明細絵図」に追記)



青森税務署
(大正～昭和戦前、歴史資料室蔵)

治時代から税に関する行政機関と繋がりのある通りといえます。

山手に新道の建設

「青森実地明細絵図」をよく見ると、収税署と水上警察の間の道は鍛冶町の通りで行き止まりとなっています。現在の本町五丁目交差点より山手の道はまだなかったのです。

ここから山手へ延びる道は明治36年の青森大林区署新庁舎建設に伴って整備されました。大林区署とは現在の森林管理局にあたる機関です。庁舎は国道NTT交差点の南側(ガソリンスタンド附近)に北を向いて建設され、鍛冶町と庁舎正面を結ぶ新道が開通しました。

大林区署跡地が税務署に

しかし、この庁舎は明治40年に火災で焼失し、大林区署は沖館へ移転しました。そして、庁舎正面で行き止まりとなっていた道をさらに南へ延ばすため、大林区署跡地を東西に分けて中央に道路を通すことになりました。道路の東側には青森税務署の庁舎が、

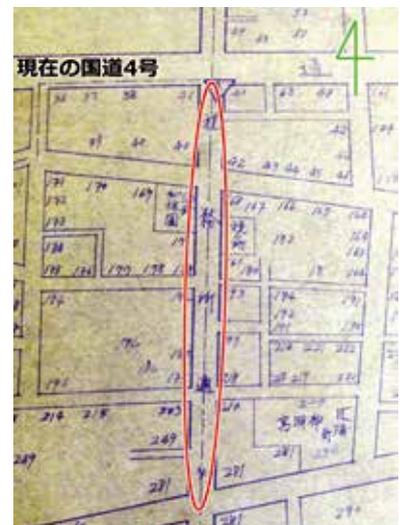
村上 亜弥編集委員
(市民図書館歴史資料室)

西側には私立青森幼稚園の園舎が建設されました。

通りの名前が定着

大正時代には税務署通りという呼称が定着し、商店の広告に「鍛冶町(税務署通り)」といった表記が用いられています。また、昭和11年(1936)発行の地図では、幼稚園と税務署の間の道に「税務所通り」と記されています。このことから国道の海手も山手も税務署通りと呼ばれていたことがわかります。

その後、昭和20年7月28日の空襲により税務署庁舎は焼失し、昭和22年12月に寺町(国道海手)へ移転しました。やがて税務署通りは主に国道4号の海手を指す呼称へと変化し、税務署が長島一丁目の青森第二合同庁舎へ移転した後は旧税務署通りと呼ばれるようになったのです。



「税務所通り」と記された地図
(昭和11年発行「浦町全町見取図」
歴史資料室蔵)